



特集

「描写」を 読み解く

長年にわたって教科書に掲載されている
「少年の日の思い出」。
今回ご紹介する授業は、描写に着目し、
描写を読み解くことから、
作品への理解を深めていくというものです。

単元名 「描写」を読み解き、自分の考えをもつ

使用教材 「少年の日の思い出」（二年）

港区立赤坂中学校教諭

甲斐利恵子先生

一年生（十七名）

中学生のことを「やる気」が歩いているような人たち」と称する甲斐利恵子先生。今年度の赤坂中学校の一年生もその表現どおりの生き生きとした表情をしています。日頃、文学作品に親しむ機会が少ないという、生徒の状況を考慮し、甲斐先生は、「少年の日の思い出」の読みに入る前にある導入を取り入れました。その導入が、作品理解をする際にどのくらいの効果をもたらすのか、本実践の見どころです。

授業の流れ

授業は全九時間（下の「学習指導計画」参照）。
甲斐先生は次の目標を立てた。

目	標
描写がどのようなものか理解する。	作品の中の描写に気づき、書き出す。
選んだ描写について、自分の意見を述べる。	

第一～三時の導入は、第四時以降の学習を充実させるための時間である。

第一時（導入①）

第一時では、教材文に出てくる言葉を取り上げ、その言葉を使って百字程度のお話を作るという学習を行う。甲斐先生はこの学習を「言葉の小劇場」と名付け、新しい単元に入るときによく行っている。書いた後は、友達の記事も読み、自分が取り上げなかった言葉の意味や使い方を知る。教材の中に出てくる言葉をしっかり理解することが、読みの支えになる。

このような頭の準備運動を済ませたところで、本単元のキーポイントとなる、二つ目の導入に入る。

学習指導計画（全九時間）

第一時	導入①「言葉の小劇場」 ・教材文に出てくる言葉を理解する。
第二・三時	導入②描写「おはよう」 ・朝の様子を描写する。 ・友達の作品を読み、表現を学び合う。
第四時	学習の流れを知る
第五時	「少年の日の思い出」の朗読CDを聴く ・CDを聴きながら、どの描写（情景描写・行動描写・心情描写・人物描写）を取り上げるか検討する。
第六時	描写を読み解く ・手引きで書き方を確認する。 ・教科書の文章の中から描写を二つ選び、それを読み解く。
第七・八時	発表 ・友達の発表について意見を出し合う。
第九時	まとめ ・学習を振り返る

描写「おはよう」

●描写を理解する

描写とは？

「皆さんの感想文を読んでいると、『この作品は心情描写がすばらしい』といった表現を使っているのを見かけますが、そもそも『描写』ってどういうものなのか考えたことはありませんか」。授業の冒頭、甲斐先生は投げかけた。改めて問われると、生徒たちはなかなか答えられない。先生は次のことを板書した。

描写

實際の状況を、書き手の観察や想像によってくわしく表す。

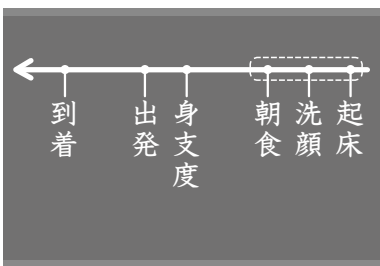
言葉の意味を知っただけでは、描写を理解していることにはならない。そこで甲斐

場面を絞って描写する

は深くうなずく。最初はおぼろげにしか理解していなかった描写が、生徒の頭の中ではつきりとしてきたようだ。

甲斐先生は、生徒の反応を見て、そろそろ次の段階にいつても大丈夫だろうと判断した。「では、皆さんにも描写に挑戦してもらいます。題は『おはよう』です。ところでAさん、今朝は何時に起きた?」「それから何をした?」などと問いかねながら、左図のように板書した。

そして、「まずは先生の『おはよう』作
文を例として読みます。この図でいうと
……」と言いながら、起床から朝食までの
部分に印を付けた。



「ここまでで二百字です。描写を入れることは、できるだけ短い時間帯に絞って、その様子を詳しく書くこと。朝起きてから学校に到着するまでのすべてを書く」とす

【先生の例】

昨日、授業の準備で夜中の一時半まで起きていた。そのせいか、いつも通り六時に起きるのがつらかった。なんだか寒くなってきたし、昨日の休みが今日も続けばいいなと思いが、ぐっぐりとべっぴんから足を出した。足が冷たかった。もう冬が近づいているんだと実感した。今日から夫は出張だ。朝の準備は自分だけだ。昨日のうちに作っていた野菜スムージーを一気に飲めば、食事はおしまい。なんだか一人って気楽でいいなと思った。



先生は例文を紹介する。「今から読み上げる文章は、皆さんの先輩（三年生）が書いた随筆です。どんな描写をしているか気をつけて聴きましょう」。

【中学三年生の例】

七つのときだ。雨はやみそうになかった。私はだれもない生徒玄関で、ある少女の前に立っていた。どんよりとした空気が私たちの間にただよっていた。予鈴が鳴った。ざあざあと雨音が聞こえる中、私たちは無言だったが、口火を切ったのは彼女だ。「うざいのよね。」一瞬、彼女の言葉を理解できなかった。

「描写がある場合とない場合とではどう違うのか、今の文章から描写の部分を抜

いて、出来事だけを並べた文を読みます」。先生は続けて読み始めた。

七つときだ。私は生徒玄関で、ある少女の前に立っていた。予鈴が鳴った。彼女は言った。「うざいのよね。」一瞬、彼女の言葉を理解できなかった。

「描写がなくてもストーリーはわかりますね。でも、描写があることによって、その場にいたわけではないのに、その状況が手に取るようにわかります。視覚、聴覚、触覚などの諸感覚を働かせると詳しく伝わります」と言い、先生はさらに具体例を挙げた。

・僕は走った。

・僕は、先を争って走った。靴と細かい砂がこすれ合う音がザツザツと鳴り響いた。

「それから、こんな描写もあります」。

- ・にっこり笑って「嫌い」と言った。
- ・軽蔑のまなざしで「嫌い」と言った。

「この二つは、まったく違う状況が思い浮かびますね」。先生の言葉に、生徒たち

ると、出来事を羅列するだけの文章になっ
てしまいます」と言いながら、再度、黒板
の図を指した。視覚化することで、そのこ
つが生徒に明確に伝わったよううだ。

「では今から一分で、どの場面を取り上げるのか決めてください」と先生は指示した。適度な時間制限を設けることで、生徒は集中する。各自、黒板の図をじっと見つめながら、朝の様子を早回しで思い出す。一人一人、どの場面を書くか発表した。後、いよいよ描写に挑戦。書く時間は十五分。早速鉛筆を走らせる生徒もいれば、じっと考え込む生徒もいる。

なかなか書けない生徒に向けて、先生は
机間指導を行う。「どんな音がした？」に
おいは？」「僕は……という書きだしにし
ないで、目が覚めると〇〇が目に入った、
はどう？」「空の色はどんな色だった？」
などと、生徒が書きやすくなるよう投げか
けていく。これらのヒントを聞いて、生徒
たちの手が動き出す。

十分後には数名の生徒から、「できました！」という声が上がった。先生は見直しするよう促し、次の時間は発表だということ伝えて授業を終えた。

まるで、家の中を のぞいているよう

発表の前に、推敲する時間と自主練習の時間を設けた。すでに推敲を済ませた生徒も、もう一度確認する。発表が目前に迫っているのに、推敲する姿は自然と真剣になる。自主練習は三十秒。全員、自分の書いた文章を声に出して読む。「二百字の作文だったら、三十秒くらいで読むのがちょうどいい速さです。二十秒で読み終わってしまふ人は、少し速すぎるということですよ」と先生はアドバイスした。

【Iさんの発表】

肌寒い朝。うるさい時計を止め床に足をつけた。足の先から床の冷たさが伝わった。だんだんと目覚めてくるとキッチンから卵を焼く音とココアのおいがした。フラフラと居間に行くとき母が朝食を作りながら静かに「おはよう」と言った。僕も静かに「おはよう」と返した。朝食を食べ、ココアを飲もうとした。冷たい手がだんだんと温かくなった。家を出る頃にはもうみんな起きていた。僕はみんなに「おはよう」と言って家を出た。



Iさんの発表が終わると、教室前から自然に拍手が湧いた。「トップバッターの人がこんなにすごいと、プレッシャーがかかるね。でも、みんなも同じくらいよく書けていますからね」と先生は言い、Iさんの文章のどの表現がすばらしいと思ったか、数名の生徒に発言させる。

生徒 「フラフラと居間に行く」という表現から、眠そうなことがよくわかります。

生徒 「静かに『おはよう』と言った。僕も静かに『おはよう』と返した」という部分から、Iさんの家の穏やかな雰囲気伝わってきていいなと思いました。

先生 まるで、Iさんの家の中をのぞいているみたいな感じがしましたね。

甲斐先生は、発表後の講評の時間を大切にしている。発表者のよいところを必ず見

第四時

学習の流れを知る

●学習の見通しをもつ

これから何時間かけてどんな学習をするのか、生徒と共有するために、先生は「学習の流れ」(P5の「学習指導計画」を生徒用にアレンジしたもの)を配布した。ひ

ととおりの説明の後、ワークシートと手引き(左図)も配布。

今回のワークシートは、「少年の日の思い出」の文章の中から、描写がすばらしいと思った部分を書き出して、その描写を読み解き、自分の考えを書くというもの。

手引きは、そのワークシートに、先生が例文とポイントを書き込んだもの。文章を書くうえでヒントが詳しく示されている。これらを見て、生徒たちは、これからの学習のイメージがつかめたようだ。

第五時

朗読CDを聴く

●描写に気づく

「今日はちよつとすてきなものを用意しました」と笑顔の甲斐先生。「ワークシートに取り組み前に、朗読CD(※1)を聴きます。俳優さんがとてもすてきな声で読んでるので、ぜひ聴いてもらいたいと思って用意しました。これを聴きながら、すばらしい描写だと思ったところに付箋を貼ったり、鉛筆で印を付けたらしてください。そう前置きし、描写には次のようなものがあると板書した。

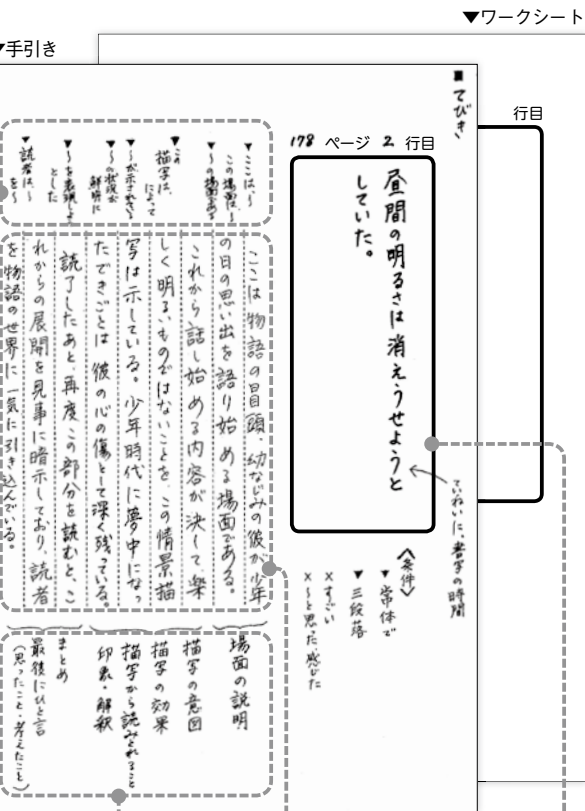
情景描写、行動描写 心情描写、人物描写

さまざまな観点から描写を意識するよう伝え、CDを再生した。生徒は気になった描写に、次々と付箋を貼っていく。「おはよう」作文を書いたことにより、描写に対して敏感に反応しているようだ。



つけて、みんなの前で価値づける。「言葉を学ぶとき、飾っては何も得られません。思ったことを素直に表現できる教室を」と心掛けているそうだ。

先生は、本時の授業をこのように締めくくった。「皆さんの描写、すばらしかったです。ではプロの作家はいったいどんな描写をするんでしょうね」。次時からいよいよ「少年の日の思い出」の読みに入る。



※1…国語指導CD1年(光村教育図書)

描写を読み解く

●自分の意見を述べる

描写の読み解きに取り組む時間になった。朗読CDを聴きながら、どの生徒も教科書にたくさん付箋を貼っていたが、まずはその中から、取り上げたい場面を二つ選び出す。先生は、それを三分間で選ぶよう指示した。生徒は「迷うなあ」「二つに絞れない」などと言いながら、取り上げる場面を決めた。

ここからは、ワークシートのフォーマットに沿って、各自取り組むのだが、甲斐先生の指導はとても丁寧だ。生徒が書き始める前に、こんなアドバイスをした。「幼い文章を卒業するために、ここに注意して書きましょう」。

○常体 ×敬体

これは禁句！
～と思った。
～と感じた。

第七・八時

発表

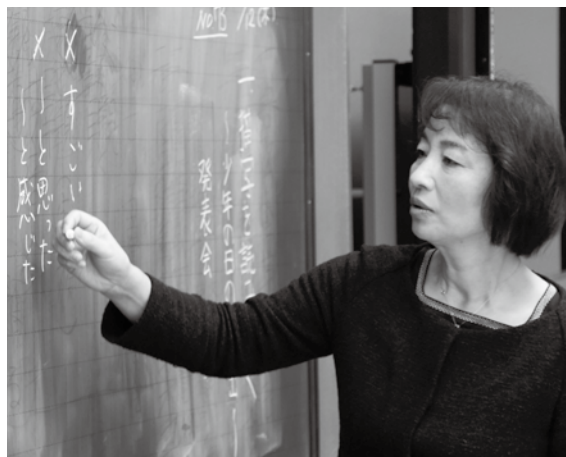
●友達の発表について意見を
出し合う

甲斐先生は、青い表紙の冊子を抱えながら教室に入ってきた。「昨日皆さんが提出したワークシートを文集にしましたよ。今日はこれを見ながら発表をしてもらいます」。生徒たちは少し緊張した面もちをしている。そんな中、甲斐先生はいつもどおり、発表前の推敲の時間を取った。

先生 禁句を使っている人がたくさんいましたよ。禁句って何でしたか？

生徒 「～と思った」とか、「すごい」とか。先生 そうそう。ちゃんと覚えていますね。そういった言葉を使うと、幼い文章になると言いましたよね。今から二分間、推敲の時間を取りますから、その間に大人の文章にしましょう（笑）。

このように繰り返し指導することで、クラス全員が中学生にふさわしい表現を身に



先生 「思った」とか「感じた」はやめて、「～だ」という言い切りの形にすると、文章がきりつと締まります。思いきってカットする力をつけましょう。

生徒 でもどうしても断言できないときはどうすればいいんですか。

先生 自信がないときは、「～であろう」を使うといいですよ。

それから、皆さんがよく使っている「すごい」「おもしろい」もやめましょう。これを他の言葉に置き換えると、今までとは違う文章になりますよ。

つけていく。そして、一人目の生徒Yさんが発表を始めた（発表の内容は下のワークシート参照）。他の生徒は、発表を聴きながら、いい表現だと思ったところにマーカーを引いていく。

先生 みんな、どこにマーカーを引きましたか？

生徒 「怪談話でもするかのように」という表現がすごくよかったので、そこに引きました。

先生 同じところにマーカーを引いた人、手を挙げてください。

（半数以上の生徒が手を挙げる。）
先生 ヘッセの「やみ一面」という表現を、Yさんは「～のよう」という比喩法を使って読み解いたんですね。「怪談話」という言葉はわかりやすくていいですね。

その後も発表は続き、二時間かけて、十七人の発表と講評を終えた。

全体への指導が終わり、各自が描写を選び、読み解くという学習に取り組み始めた。手引きを机上に置き、プロの描写の読み解きに挑戦する。ヘッセはなぜこのような表現を使ったのか、その思いや意図を考える。「この文章は、○ページの場面への伏線だ」などと深い読み解きをする生徒もいる。

先生の丁寧な指導はここからも続く。生徒の様子を見ながら、必要に応じて声をかけていく。文章の主述が合っていない生徒には、「これは誰がそうしたの？」と質問。生徒は少し考えて、「あつ」と気がついて書き直す。

ある生徒は手を挙げて先生に質問する。「『すごい欲しい』ということとを別の言葉で表現したいんだけど……」。先生は生徒と一緒に類語辞典を見て、言葉選びの相談に乗る。「この場合は、『欲望』かな、『欲求』かな？」

丁寧な文章指導により、授業時間内に全員がワークシートを書き終えることができた。「おはよう」作文を経て、皆さんがどんな読み解きをしたのか楽しみです。次の時間に発表してもらいますね」と告げて、本時の授業は終わった。

180ページ 10行目

かえるが、遠くから甲高く、
やみ一面に鳴いていた。

ここは、物語の冒頭から少し進んだところである。子供の時の思い出を語りはじめる場面だ。これからする話に楽しさを感じさせない、怪談話でもするかのように、静かに、自らの苦しい思い出を真剣に語っていることが、この情景描写からわかる。大切な場面の冒頭を、この描写でうまく表しているのだ。

▲生徒Yのワークシート



まとめ

●学習を振り返る

単元の最後に、先生は再度、「描写とは」という話をした。「描写をすることによって、その状況は、ほんやりとしたものから輪郭をもったはつきりしたものになります。今後、他の作品を読むときや、自分で文章を書くときは、『描写』にぜひ着目してみてください。」生徒たちは、先生の顔を見ながら深くうなずいた。

生徒作例

——「少年の日の思い出」の描写を読み解く——

180 ページ 16 行目
～181 ページ 2 行目

ちようを採りに出かけると、学校の時間だろうが、お昼ご飯だろうが、もう、塔の時計が鳴るのなんか、耳に入らなかった。

これは、彼の幼い頃について語っている場面である。彼はどんなことよりも、ちようを採りに行くのが好きだったことが伝わってくる。「くだろうが」という言葉の反復がともいきている。この描写により、後に起こる事件で、彼がどれだけクジャクヤママユを欲していたかがわかる。

思いつくを語るとき、この描写があるのではない、大きな違いがでてくる。

178ページ 2～3 行目

色あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。

ここは物語のはじめで、「私」は夜に窓の外を眺めている。この後から「彼」の話が始まる。

このたった二行の情景描写で、この話が暗いものだと示しているのはもちろん、「遠くかなた」というところから、終わりのない話だということも読みとれる。

ここから作者は、「彼」の話のシチュエーションをより分かりやすく説明しているのではないか。

185 ページ 17 行目

その瞬間に、僕の良心は目覚めた。

この場面は、僕がエミールのちようを盗んでしまい、そのとき、誰かが下からやってくるのが聞こえた場面である。

それまでは、ちようを手に入れた喜びしかなかったが、自分がした事の重大さを僕は感じたのだ。だんだんと僕が苦しんでいくことがよく分かる。

この後のさらなる展開の前置きとしても有効だろう。

授業を終えて

甲斐利恵子

「描写」を体感してほしい

「描写」ということを頭で理解するのではなく、体感してほしいというのがこの授業の始まりでした。私たちの日常生活には「描写」を感じるチャンスがいっぱい転がっています。まずは、「描写」のもつ力を体感することから始めたいと思います。

日々の何げない日常も「描写」することによって色鮮やかなものになります。同じ風景の中にも目のつけどころは人それぞれで、その人のもっている価値観、美意識、習慣などによって描かれる風景は異なってきます。また、そのときの心のありようによって、切り取る風景はおのずと異なったものになります。表現する側に立って「描写」を体感し、その生産過程に身を置くことによって、「描写」を理解することができるのではないかと考えました。

重厚な「描写」を
味わうための単元構成

今回の単元は大きく二つの構成になっています。一つは「描写」をする学習。もう一つは「描写」を味わう学習。「描写」を味わうために、いわばその土台作りとして「描写」をする学習を先にしておこうという試みです。「少年の日の思い出」の中にある重厚な「描写」を味わうための、「基礎力」をつけておきたいという意図がありました。

「少年の日の思い出」の朗読CDを聴きながら、すばらしいと思った「描写」に付箋を貼るという学習の時間がありました。文章を食い入るようにながら付箋を次々と貼っていく生徒たちは、真剣に文章に向き合っていたと思います。

生徒たちの姿を見て

「おはよう」作文は初めての試みでしたが、生徒たちが自分の朝を楽しそうに



かい りえこ

福岡県生まれ。東京都港区立赤坂中学校教諭。光村図書中学校「国語」教科書編集委員。専門は国語科単元学習。著書に、『子どもの情景』（共著・光村教育図書）、『聞き手話し手を育てる』（共著・東洋館出版社）など。

表現する姿を見てほっとしました。目覚めたとき何が見えたの？ どんな音が聞こえたの？ 登校する途中には何があるの？ 「おはよう」と声をかけたのは誰に？ そのときの表情は？ と、小さな問いを発したとたん、生徒たちの鉛筆が動きだしました。発表会は、それぞれの個性がよく表れた楽しいものとなり、「描写を読み解く」の発表会も（もちろん、まだまだですが）充実したものになりました。

参考図書のご紹介

「少年の日の思い出」をより深く知る



ヘルマン・ヘッセ 蝶

V・ミヒェルス 編／岡田朝雄 訳／岩波書店

ヘッセの蝶・蛾を題材にした散文・詩を、美しい挿絵とともに収めた作品集。ヘッセは生涯を通して蝶に深い関心を寄せていたことがわかる。

※本書は絶版のため、図書館や古書店などから入手してください。



少年の日の思い出 —ヘッセ青春小説集—

ヘルマン・ヘッセ／岡田朝雄 訳／草思社

ドイツ文学者岡田朝雄氏による新訳（2010年発行）。訳者は昆虫にも造詣が深く、蝶・蛾に関する訳注が充実している。教科書掲載の同作品（高橋健二訳）の描写表現との比べ読みもおすすめ。

生徒に「描写」を味わってほしい



楽隊のうさぎ

中沢けい／新潮文庫

中学の吹奏楽部を舞台にした作品。引っ込み思案の少年の心の機微と成長が描かれている。友人や家族とのやり取りの描写が自然で、中学生読者が共感しやすい。日常の描写例として参考になる1冊。

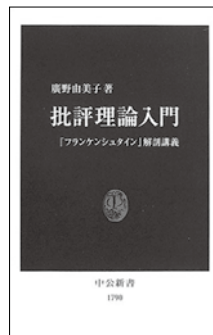


一瞬の風になれ

佐藤多佳子／講談社文庫

高校の陸上部を舞台にした作品。短距離、リレーなどの競技中の描写からは、疾走感や爽快感が伝わってくる。また、生き生きとした人物描写が、中学生読者の心をとらえる。魅力的なタイトルにも着目したい。

「描写」の研究に



批評理論入門

廣野由美子／中公新書

イギリスの怪奇小説『フランケンシュタイン』をさまざまな観点から読み解いた1冊。小説の冒頭部分の役割や、語り手の効果などについて解説している。小説の仕組みと読み方を専門的に学びたい人におすすめ。



人物表現辞典

中村明 編／筑摩書房

日本近代文学から採集した、1万近い人物描写の文例を分類・整理した1冊。描写例を探すときに使いたい。『感情表現辞典』『感覚表現辞典』（中村明／東京堂出版）などもおすすめ。



かみたに じゅんさぶろう

1962年鹿児島県生まれ。鹿児島大学教授。光村図書小学校・中学校『国語』教科書編集委員。文学的文章の授業。読者中心の文学理論などについて研究。著書に、『読者論で国語の授業を見直す』（明治図書出版）など。

授業リポートを読んで

かみたに じゅんさぶろう
上谷順三郎

「読む書きの両方で 「描写」を学ぶ

描写は必ずしも必要ではない。それがなくても大体は通じる。その「なくてもいい」ものを学ばせるために、甲斐先生はさまざまな試みを行った。

第一時では、教材文から言葉を抜き出し、それらを使って作文を書かせるという学習を行った。第二・三時では、描写がある文章とない文章を比べさせる学習を組んだ。そして描写が授業以外の場でも生かせることを「おはよう」作文で体験させた。この授業では、書いたり読んだりする活動が繰り返し取り入れられ、描写を読み書きの両方から学べるようにしている。そして描写は、作家だけでなく、自分たちの表現にも関係することを実感させているのである。

「聴く」ことで 「描写」を意識させる

描写がない方がわかりやすい。それは注意して読まなくていいからだ。ただ、描写に注目するとあらたな楽しみがあることに気づく。その楽しみを実感させるには「聴く」が効果的なのである。甲斐先生の授業では「聴く」が効果的に盛り込まれている。

第二時で取り上げた先輩の作文は、先生が音読するのを生徒が聴く。「おはよう」作文のモデル文も読んで聞かせる。そして生徒の作文は、必ず音読発表をさせて、他の生徒に聞かせる。教材文はプロの朗読を聞かせる。描写は微妙なニュアンスがあるぶん、集中して取り組まないとおもしろさがわからない。描写を楽しむを發揮していたといえる。

最後に、「少年の日の思い出」の人物描写について付け足したい。エーミールに対する僕の見方については「呼称」に注目するとおもしろい。「隣の子供」「先生の息子」「この少年」「彼」ときて、二年後の話でやっと初めて名前が出てくるときには、いきなり「あのエーミール」なのだ。この話を「私」にしているときの思いが表れているのだろう。

* * *